月刊 おかじょうき

おかじょう通

http://www.okajoki.com/



2026
11

CONTENTS

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし　4

会員雑詠集「無人駅」　7

■例月句会結果■
おかじょうき川柳社　10 月例句会　21
十和田たてがみ川柳会　9 月句会報　30
チャッピーの人間観察録「待 AI 室」　27

会員エッセイ「駅ノート」　戎　踊兵　28

■大会レポート■
「らくだに乗ってきました。」最終回　Sin　33

Infomation　34 ～

月刊おかじょうきを ど～～しても紙で見たい！ というあなたへ

２月号から紙の柳誌発行を止め、電子柳誌だけの発行に移行しましたが、皆さんには「絶対、電子だけで見てください！」と言っているわけではありません。経済的に余裕のある方は（といっても月数百円くらいですが笑）、製本された形ではないですが、紙に印刷して読む方法もありますので、以下の方法の中から、ご自身の周辺の環境に合った方法でお試しください。

【方法①】PC とプリンターで印刷する
お家にパソコンとプリンターがあれば、電子柳誌をお好きな大きさの用紙に印刷すれば OK です。

【方法②】スマホとセブンイレブンで印刷する
右のアプリを使って、お近くのセブンイレブンのコピー機でスマホで印刷することが出来ます。

【方法③】スマホと近くのコンビニで印刷する
右のアプリを使って、お近くのコンビニ（ローソン、ファミリーマート、ミニストップ、ポプラ）のコピー機から印刷することが出来ます。

【コンビニでのプリント参考価格】
A3 モノクロ 1 ページ：約 20 円／ A3 カラー 1 ページ：約 100 円
見たいページだけ印刷して節約するのもアリですね！



無人駅抄 カンテラ むさし

あっという間に11月。
今年の川柳忘年会で、おかじょうき川柳社のホームページにあるデータベースを元に私をいじるという企画が浮上した。
いじり役に、ＡＩも登場するらしい。
どんな忘年会になるのやら（汗）

それでは、カンテラに明かりを点しましょう。

Ａ群

掃除後の他人行儀な室の顔　ひらく
未練かも知れない　止まぬ耳鳴り　一帆
傷だらけの海に落ちてく赤い月　笹田隆志
逃げないと決めたらこんなとこにドア　木下香苗
蓋閉じて夕陽をしまうオルゴール　吉見恵子
もう辞めたこれが言えたらいいのにな　嵯峨寛之
一日に一回悪いことをする　まみどり
レシートの裏に自叙伝書いてある　夏草ふぶき
ひまわりになり損なった昼の月　辻井洋子
脱ぎすてた自分にばいばいと言おう　月波与生
クール便で送りましょうか秋蝶の雌　柳本惠子
こめかみを押して私を組み立てる　三浦蒼鬼
さまざまないいわけをして今日が居る　小松憲一
青空が飛ばないように留めておく　守田啓子

守田啓子さん、「青空」って飛ぶものだったの？でさ、画鋲なんかで「留めて」おけるんだっけ？曇り空だと飛んで行って欲しいから留めないんでしょ。啓子さん、「青空が飛ばないように」ロープでぐるぐる巻きにしちゃうと空が隠れてしまうからね！

Ｃ群

Ａ４の隅で蒔いてる女偏　坂本清乃
台風が落としていったおじいさん　葉　閑女
鼓笛隊覗けばみんなヒットラー　嵯峨山登
日だまりの真ん中闇が加速する　土田雅子
居酒屋で赤鬼一匹殺ってくる　小野五郎

坂本清乃さん、「Ａ４」って紙のサイズですよね。我々が普通に使っている紙の大きさで210mm × 297mm

寝息を先に聞いたのでわたしの負け　四ツ屋いずみ
気がつけば満月　途中が抜けている　熊谷冬鼓

熊谷冬鼓さん、「途中が抜けている」って「満月」になるまでいつから月を見ていなかったの？満月から次の満月までの平均周期は約29・5日なんだけど。あれ？「途中が抜けている」のは月を見ることじゃなく、もっと違う何かかもしれないね。１字空けに何かありそう。

Ｂ群

あやふやなままでは置けぬ薪割り機　戎踊兵
雪混じりだったそっけない返信　きさらぎ彼匂吾
空席に座れば過去が寄ってくる　奥田悦生
月曜をなだめすかして靴を履く　斎藤泰子
かくれんぼ　虹はお尻を出している　茫岡かんえもん
墓老いる私ほどではないけれど　吉田州花
海ひとつ呑んだ顔して明日がくる　米山明日歌



おかじょうき川柳社会員雑詠集

無人駅

★無人駅10月月間賞

安否確認しよう紫陽花しよう

守田 啓子

のやつ。「女偏」は、『漢字の偏の一つ。「始」「妹」などの偏の「女」の称。』（広辞苑）。この「女偏」は比喩で、たぶん清乃さんの女性たるところ、って感じかな。つまり、自分の女性らしい所を「A4」サイズの紙の「隅」に書き付けているってことだ。違うかな。「女偏」を蒔くとどうなるのかな。

葉閑女さん、とんでもない「台風」がいますね。最近、大雨や強風で甚大な被害を及ぼす「台風」が次々日本に上陸しますが、「おじいさん」を落としていく「台風」がいるとは初耳です。普通の「おじいさん」はよぼよぼだけど、この「おじいさん」はどうなのかな。

嵯峨山登さん、「鼓笛隊」は、『笛と太鼓とから成る行進用の音楽隊。』（広辞苑第七版）ですよね。よく見かけるのは小・中学生の鼓笛隊ですが、大人のやつも、宗教団体のやつもありますね。元は、中世ヨーロッパの軍隊で、行進や戦陣での信号伝達・統率のために使われたもの。とすれば、「ヒットラー」だけで構成された「鼓笛隊」があっても不思議はないか（汗）

土田雅子さん、「日だまりの真ん中」って「闇」だったの？これって、もしかしたら、明るく笑っているヒトの「真ん中」がどす黒い「闇」でできていて、それが急速に増えているってことじゃない？そんなことはないか。

小野五郎さん、「殺ってくる」は「やってくる」と読むんですよね。「殺る（やる）」は広辞苑に出て来ませんが、AIに聞くと『「殺る」の読み方は、一般的に「やる」と読みます。正式な常用漢字の読み方ではありませんが、「殺す」という意味や、口語の「やる（物事を実行する、痛めつける、倒すなど）」に「殺」の字を当てた表現です』と教えてくれました。で、五郎さんは、「居酒屋」で「赤鬼」を「一匹殺って」来たのですか…。「鬼」は人じゃないから殺人にはなりませんね。にしても、「鬼」を「殺って」しまうとは凄い。五郎さんと呑むときは気をつけないと（汗）

嵯峨寛之【さがひろゆき・青森県八戸市】

悲しみの先に眩しい陽がそそぐ
この涙乾く間もなくまた涙
疲弊した心に釘を打たれた日
もう辞めたこれが言えたらいいのにな
優しさが自分の傷をえぐる日々

先月号のお気に入り

嵯峨山登【さがやまと・佐賀県大和町】

鼓笛隊覗けばみんなヒットラー
耳のない人沿々とまくし立て
つぶされた種が芽を出す♪年後
クォークになった弘法大師さま
スパイダーマン犍陀多にゆるされる

先月号のお気に入り

半世紀母のしっぽが巻き付いて　木下香苗
「が」が川柳的だなと、川柳人でない私は思いました。

笹田隆志【ささだたかし・青森県青森市】

傷だらけの海に落ちてく赤い月
大波も小波も波だ岩波文庫
国旗損壊すれすれ夜の梅茶漬け
自分史の火傷の痕は酒浸り
すれすれのパワハラ玩具猫じゃらし

先月号のお気に入り

雨の夜　途切れ途切れの闇つなぐ　米山明日歌
途切れ途切れに闇は明るくなってやがて消えます

芝岡かんえもん【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

饒舌の海で溺れている金貨
オムライス　自問自答を繰り返す
かくれんぼ　虹はお尻を出している
剣呑な女　ブルドーザーが入ります
綿飴になって一度は空を飛ぶ

先月号のお気に入り

Mサイズの答えではピチピチなの　米山明日歌
…と言っても、Sでは入らないしLでは大きすぎる。ピチピチぐらいで楽しみましょう。欲をかいてはいけません。

城後朱美【じょうごあけみ・福岡県八女市】

栗ごはん炊こうか母の三回忌
法事だけは賑やか人の来ない家
思春期の孫仏壇に手を合わせ
犯人不在東野圭吾読み返す
風はひんやりと夕方の草取り

先月号のお気に入り

同じ夢ばかり見る危険な暑さ　鳴海賢治
今年の夜は暑かった。寝汗かいて、うなされました。

Sin【しん・青森県外ヶ浜町】

洗剤を足して洗っている名字
こう見えて遭難してるつもりです
性器の暗証番号忘れた　詰んだ
タバコ吸う　誰かの夜景の端くれで
旧姓が濡れるところにありますよ

先月号のお気に入り

半額の竹輪の穴でランニング　坂本清乃
短っ！

須藤しんのすけ【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

かか様ととと様といく異空間
生温い遺骨並んでいる職場
ばあちゃんが笑う親指おっ立てて
ニッポンの未来はアンタに任せた
投げキッス受け止め動けないからだ

先月号のお気に入り

完全な闇を手にするまで走る　斎藤泰子
走るという行為のゴールが「闇」だなんて…なんか斜に構えててカッコイイ！

瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

燦々と降り注ぐ陽の影の濃さ
はみ出した足跡に降る明日の雨
結び目に母の記憶は解けない
人生の年輪 刻まれる背中
透明なペンが国境引く無色

先月号のお気に入り

お向かいはやたら目につく鼻につく　まみどり
人間関係のモヤモヤがよく描写されている。「つく」のリズムがいい。

田中　薫【たなかかおる・青森県弘前市】

ここの傷舐めて欲しい意地っ張り
ひまわりが半音あげて歌ってた
線を引くどっちに行くのからっぽやみ
つまずくし平坦なのに許せない
罪のない月に吠えてるムカデくん

先月号のお気に入り

ほどほどの蜜を余白に塗っておく　吉見恵子
ほんのちょっとでいいです。下さいな。

月波与生【つきなみよじょう・青森県大鰐町】

へびがくる蛇がくるからパンを焼く
ながいながいながいお別れの途中
くるくる巻きすぎて地球になりました
丸呑みにされた世界が明るいぞ
脱ぎすてた自分にばいばいと言おう

先月号のお気に入り

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

頬杖をつけばただ眠くなる葦
背の荷物駅に放って平泳ぎ
ひまわりになり損なった昼の月
来年の花の種買う生きたくて
あっ投函引き金引いてしまったね

先月号のお気に入り

ノウゼンカズラ落下の途中欠伸する　守田啓子
花の心境をいろいろ想像してしまいました。

土田雅子【つちだまさこ・青森県青森市】

戦争反対　地球を丸洗い
食べログもくまログもある日暮れ時
孫ひ孫インフル人がやって来る
ゲリラ豪雨続く地球の罪つづく
日だまりの真ん中闇が加速する

先月号のお気に入り

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

カモメ飛ぶきれいに病んでいく翼
焼香を終えて静かに閉じる窓
足跡を消し去っていく歩道橋
レシートの裏に自叙伝書いてある
蛍光灯切れて私が二人いる

先月号のお気に入り

追い越す時は年齢を忘れる　吉田州花
そうです、ずっと追い越していましょう。

七澤銀河【ななさわぎんが・東京都】

幸せとしわ寄せの表裏一体
遺伝子を組み替えられたティディベア
炊きたての米が欲しいと泣く如来
三つ星が袖に隠したサッカリン
八の字の暗号を解く闇執事

先月号のお気に入り

さようなら虎の形をした火傷　月波与生
どこまで焼き尽くすのかと言う、溶鉱炉並みの高音を感じさせる一句。さようならと言いながら決別を詠んでいないところが好い。

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

やる気あるけどやらない気もあります
さまざまなことに利用をできないか
手ぐすねを引くドローンがやってくる
はきものをかえてみるみかんはみっつ
たどりついたらはだしで歩いている

先月号のお気に入り

夕間暮れ深い話をしましょうよ　土田雅子
「深い話」に引かれました。

ｎｅｓ【ねす・兵庫県神戸市】

使徒が泣いている喫煙室の外
見せたろかスプレー缶も必死やで
ケミカルがフランス領になる夜明け
汚されて汚して子子のうごき
そして海岸テイクアウトはやめた

先月号のお気に入り

ひらく【ひらく・青森県蓬田村】

吠えるよに空に向かって泣くヤマセ
掃除後の他人行儀な室の顔
積ん読を発掘しつつタイムラグ
気落ちした日の冷コーはそっと片寄せる
隠れん坊箪笥の裏に昭和平成

先月号のお気に入り

舟木小柳【ふなきこりゅう・青森県青森市】

戦禍の子爆音の中ゲームする
ポチポチと通販重ね箱だらけ
かさぶたを剥がせば我はサイボーグ
失恋のケロイド隠すファンデーション
終活のワルツ見守る御本尊

先月号のお気に入り

待ちぼうけ今宵は独り焼肉だ
独り焼肉、なかなか乙なものです。　笹田隆志

まきこ【まきこ・青森県青森市】

昨日から待ち続けてるためいきを
いい加減な女で大福大好きで
あかさたな明日はきみを振るつもり
胃酸過多本日終了いたします
横断歩道何を迷っているのだろう

先月号のお気に入り

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

一日に一回悪いことをする
反省と期待で2回良いことを
3度目の正直だけど忘れっぽい
四方八方まだすり抜けられる柔軟さ
五分五分もグレーゾーンもつまらない

先月号のお気に入り

実戦で育つ度胸も愛嬌も
何だって経験しなきゃわからない。　斎藤泰子

三浦蒼鬼【みうらそうき・青森県黒石市】

考える葦って他人行儀だな
こめかみを押して私を組み立てる
思春期の付箋外すとトゲがある
むらさきになれる長男なのだから
納豆を捏ねながらこの世を捏ねる

先月号のお気に入り

峯島　妙【みねしまたえ・大阪府大阪市】

蒸し鶏をあなた忘れるように裂く
ケンケンパ答え出せずにケンケンパ
飛び石のずっと向こうは晴れている
メルカトル図法に慣れた飛鳥II
風鈴の自律神経乱れてる

先月号のお気に入り

右手には正義左手にはアンタ　一帆
困りましたね、多分左手が勝つんでしょうね。

宮井いずみ【みやいいずみ・大阪府大阪市】

ロマンス詐欺すれすれの惣菜屋
十六もあったタスクのあとふたつ
明星は人参サンドほど真面目
汚いと思う青空だと思う
その犬は死んだ白い布となり

先月号のお気に入り

完全な闇を手にするまで走る
私も走っています　斎藤泰子

村井規子【むらいのりこ・青森県大鰐町】

尻に火が突然着いた締め切りだ
秋晴れだビタミンDが降りそそぐ
プライドにかけてじゃがいもは国産
有人で徹すぞ買い物とタクシー
間食をしない自分にあっぱれを

先月号のお気に入り

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

迷路だらけの泥沼ずっと歩いてる
後期高齢記憶できないことばかり
感覚器官の暴走止まらない
鬼は外ペット吐き出す腹の虫
人類は克服するかこの気候

先月号のお気に入り

遠ざかる記憶　音程ズレていく　木下香苗
わかります

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

青空が飛ばないように留めておく
スイカみたいな時限爆弾持たされる
火ばさみで拾ってる棘ある話
幸せになる実だ独り占めしよう
飛び立つ日飛べますように枯れた蔓

先月号のお気に入り

たてがみを捨てる自由に飛ぶために　宮井いずみ
いいねっ！

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

オンデマンドでカシオペア座さがす
クール便で送りましょうか秋蝶の雌
バラバラの秋の三原色テープで止める
あと一歩あと一歩で秋出発いたします
夏に壊れ秋に金継ぎ冬に入る

先月号のお気に入り

あやふやな明日へ石を投げてみる　辻井洋子
まずは漬物石を投げますわ

葉閑女【ようかんにょ・青森県青森市】

「パコソン」と言ってたYも十七歳
舟漕いで眠れる森の魔女になる
樹が騒ぐ誰かを待っているようだ
独り居はいいな何をしても独り
台風が落としていったおじいさん

先月号のお気に入り

グラスから宇宙の音が聞こえます　奥田悦生
ホルストの惑星が聴こえてきました

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

秋だもの私と空とすぐに暮れます
墓老いる私ほどではないけれど
置き去りにしよう晩夏のせいにしよう
背伸びしかできぬヒマラヤ杉だもの
止まれない働き蜂の足運び

先月号のお気に入り

たてがみを捨てる自由に飛ぶために　宮井いずみ
イッコーさんになるために

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

クラフトの森の明かりに迷い込む
皿に盛る過去の桜と未来のさくら
蓋閉じて夕陽をしまうオルゴール
最強のドミノが並ぶ月の下
名月が私の窓を拭いてゆく

先月号のお気に入り

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

寝息を先に聞いたのでわたしの負け
復元の古代女性像　似てる
愛嬌よ過ぎ連休前のアーチ橋
プロテイン不足　ダム湖に見破られ
気づいたら湯気の消えてた美術館

先月号のお気に入り

はしゃぎにはしゃいでもどうせしゃぼんだま　きらさぎ彼句吾
オールひらがな表記で心に響きます。特に「どうせしゃぼんだま」が。

米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

頬染める健気な明日待ってます
ふる里の水音だけが知る明日
海ひとつ呑んだ顔して明日がくる
向こう岸支えて明日は立っている
あれからを編み続けてる明日である

先月号のお気に入り

円周の内側だけを愛し合う　瀧尻善英
勉強になりました。が、それがなかなかできません。

安藤なみ【あんどうなみ・愛知県瀬戸市】

土砂降りはお月さんまでなみだ顔
サーファーが背に朝虹を呼び寄せる
こんなにも増えて小銭は何処へ行く
居眠りは可イビキは不可の審議会
ウェルテルと踊る実現しない夢

先月号のお気に入り

読んでいた本の歩幅で歩きだす　吉田州花
気を付けて！

一帆【いちほ・秋田県秋田市】

納得をするには足りぬ金平糖
未練かも知れない　止まぬ耳鳴り
真夜中の羊と添い寝してる漠
さする手にむかしむかしの肌ざわり
午後三時雨のち晴れを待つ予報

先月号のお気に入り

正しいというつめたさが染みてくる　斎藤泰子
正しいって怖い

亥の一【いのいち・青森県青森市】

思春期の部屋に蛸壺一つ置く
蝶放ち私も当て所無き旅へ
卵から生まれりゃ羽があったのに
当人が秘密広める浮世でず
フリーハンド引くのに頬杖ついている

先月号のお気に入り

戎 踊兵【えびすようへい・青森県外ヶ浜町】

積乱雲プテラノドンは小さき点
少し残った余白を今日はそのままに
カマキリが首を傾げて馬鹿にする
丁度良く光を溜めていたらんちゅう
あやふやなままでは置けぬ薪割り機

先月号のお気に入り

Mサイズの答えではピチピチなの　米山明日歌
Lサイズのシャツを LLサイズにしたら、世の中ってこんなに楽に生きられるんだって知りました。

奥田悦生【おくだえつお・三重県伊勢市】

君の隣に座れば罪が腿にくる
座る場所探して今日も日が暮れる
空席に座れば過去が寄ってくる
座ったらもう戻れない恋の椅子
親切が逃げ道ひとつ塞いでる

先月号のお気に入り

小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

ＡＩが壊れる弦楽四重奏
天国の門の前から引き返す
居酒屋で赤鬼一匹殺ってくる
工事場のトラ柄ロープで金縛り
明日の午後弱い殺意になるでしょう

先月号のお気に入り

きさらぎ彼句吾【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

雪混じりだったそっけない返信
舞い上げてくださいますな胸の澱
はぐれたらはぐれた彩で咲いてみる
温度差の酷いくちづけだな　渇く
語尾はうやむや愛を問うから雨になる

先月号のお気に入り

列の最後にもう人間はいなかった　芝岡かんえもん
SFであれかし…振り向くのが怖い

木下香苗【きのしたかなえ・滋賀県草津市】

走馬灯神戸の夜景どうするか
この野郎！マツコ・デラックスの言い方で
雨だれで修行始める男子たち
逃げないと決めたらこんなとこにドア
物わかり良ければ死ぬぞペッと出せ

先月号のお気に入り

風采の上がらぬ男から後光　葉　閑女
だからこそ！逆に！ありがたい。『神と黒蟹県』（絲山秋子）という小説を思い出しました。

熊谷冬鼓【くまがいとうこ・青森県青森市】

鎌の月存在の意味聞いてくる
定位置はここかと揺れる枯れススキ
聞き流す屁理屈 ヒヨドリ騒がしい
赤い実は残され矛盾を突いてくる
気がつけば満月 途中が抜けている

先月号のお気に入り

遠ざかる記憶　音程ズレていく　木下香苗
音程のズレのせいだったとは。納得です。

小松憲一【こまつけんいち・宮城県亘理町】

さまざまないいわけをして今日が居る
こっそりとかくしたつめを持て余し
ひょっとこと狐の面をつかいわけ
焼き立てのパンオリーブを塗ってミライ
富有柿のよそゆきの顔終わる秋

先月号のお気に入り

この度はデジタル表記の湿度計　熊谷冬鼓
小学生の時に乾湿球の温度差から湿度を表で探して日報に記載する当番を思い出しました。

斎藤泰子【さいとうたいこ・秋田県大館市】

月曜をなだめすかして靴を履く
ゆっくりと乾く取り乱さぬように
秋涼へ枯れる準備はできている
聴いているように聞く夫のハナシ
美しく老いてそれからどうするの

先月号のお気に入り

おひさまのたねがもらえるようちえん　むさし
こころが洗われます。

坂本清乃【さかもときよの・青森県蓬田村】

棒鱈を喰って夏日を遣り過ごす
ゴム長に疲れを言えず草むしる
Ａ４の隅で蒔いてる女偏
缶コーヒー一人乾杯昼の月
ぎこちない股関節はオイル漬け

先月号のお気に入り

むさし【むさし・青森県蓬田村】

台風が居座っているボタン穴
スマホから月に向かって飛ぶ人魚
封筒を破り出て来る錆びた釘
手の中で滲んで消えてしまうひと
震源は右足震度２の予報

無人駅は会員の自由な発表の場です。
未発表作品５句をお寄せください。
また、お手元の最新号から、お好きな作品とそれに対する簡単なコメントもお寄せください。

使ってますか？
登録作品数 9.4 万句を突破！
川柳データベース
https://okajoki.com/db/


おかじょうき川柳社　10月例句会

表面張力　これが

10月3日（土）午後2時～　アウガ5F 小会議室

▼出席者（17名）
土田雅子・熊谷冬鼓・Sin・田中薫・舟木小柳・まきこ・きさらぎ彼句吾・葉閑女・須藤しんのすけ・守田啓子・小松憲一・むさし・栗橋くにお・渡邊こあき・一帆・夏草ふぶき・小野五郎

▼投句者（21名）
柳本惠子・安藤なみ・米山明日歌・峯島妙・鳴海賢治・宮井いずみ・郷田みや・戎踊兵・斎藤泰子・村上あつこ・笹田隆志・芝岡かんえもん・蜂屋ホログラム・坂本清乃・嵯峨寛之・嵯峨山登・辻井洋子・まみどり・村井規子・城後朱美・nes

飲み込んだ言葉を月が語りだす
暗い夜ケイタイの音とびおきて
金色の月がまばたき　黒い猫
月笑う　あの日の絶望　孤独感
呑みすぎた男を月が追い越して
隠し事好きな私はおぼろ月

「A-Paradise 2026」で川柳ワークショップの講師してきました！

9月6日（日）、青森市役所本庁舎サードプレイスで開催された「あおもりアーツカウンシル」主催の「A-Paradise 2026～もじもじ ふみふみ 遊文學～」の「はじめての川柳ワークショップ」に川柳の講師をSinが務めさせていただきました。

当日は、若い世代の5名の参加者に、簡単な川柳の歴史をレクチャーし、実際に川柳を作ってもらいました。少しテクニックを教えて30分ほどで作ってもらった作品がこちら。



いかがですか?結構、良くないですか？
今回の参加が、川柳に親しむきっかけになっていればうれしいですね。

席題『額』

青森県青森市　**土田雅子 選**

【佳作】

元気かい仏間の義母の笑顔から　小松憲一
割り勘の波を飲んでから無敵　須藤しんのすけ
仏壇の上の額からうめき声　むさし
ストレスを猫の額に埋めておく　熊谷冬鼓
狙撃者の額の奥の咀しゃく音　夏草ふぶき
デコピンがちょうどぶつかる位置の人　Ｓｉｎ
おでこちゃんと呼ばれた頃がなつかしい　まきこ
目についた広い額は褒めておく　熊谷冬鼓
釈迦である額のイボを何と見る　小野五郎
トランプの額を黒く塗り潰す　須藤しんのすけ
モナリザの額から出るガンマ線　夏草ふぶき
誉め言葉額面で受け大火傷　舟木小柳
抽象画今日は斜めに飾ろうか　熊谷冬鼓
額縁からはみ出していく自画像　夏草ふぶき
ジイサンのおでこのしわがバズってる　むさし

【秀逸】

しがらみを外しおでこに張っておく　まきこ
脳内の原生林でするマラソン　栗橋くにお
さっきから主語がうろついている額　Ｓｉｎ

【特選】

フレーム外され煮くずれたモナリザ　きさらぎ彼句吾

¶ 額縁がモナリザの笑みを保ってくれていたのですね。

席題『額』

青森県青森市　**熊谷冬鼓 選**

【佳作】

ジイサンのおでこのしわがバズってる　むさし
トランプの額を黒く塗り潰す　須藤しんのすけ
半額で売ります線状降水帯　むさし
前世の差額払って居るこの世　土田雅子
おでこへおでこもママとの糸でんわ　きさらぎ彼句吾
変顔は額面通りうけとれぬ　渡邊こあき
スプリング機能の付いたでこっぱち　土田雅子
額縁の中で消えない既読スルー　一帆
満月はちょうど割り勘できるから　Ｓｉｎ
フレーム外され煮くずれたモナリザ　きさらぎ彼句吾
額縁は銃口 地獄曼荼羅図　きさらぎ彼句吾
仏壇の上の額からうめき声　むさし
泣くたびにやわらかくなる黒縁の額　守田啓子
モナリザの額から出るガンマ線　夏草ふぶき
額縁からはみ出していく自画像　夏草ふぶき

【秀逸】

しがらみを外しおでこに張っておく　まきこ
むつ湾が額縁になるもみじする　守田啓子
さっきから主語がうろついている額　Ｓｉｎ

【特選】

狙撃者の額の奥の咀しゃく音　夏草ふぶき

¶ 狙撃者の不気味さが…。

宿題『予定』

青森県弘前市　須藤しんのすけ　選

【佳作】

満月へ高齢入居者募集中　栗橋くにお
何もしない時間ささやき色の空　宮井いずみ
柿提げて思わぬ客がやってくる　城後朱美
あの世へはトンボに乗って行くつもり　むさし
夜が明ける予定はないが薄化粧　坂本清乃
しあわせな予定ばかりじゃない手帳　斎藤泰子
空席待ちの人生で良いですか　土田雅子
ぷかぷかと湯船に浮かぶ予定表　田中薫
暇なはずだった月初のバタフライ　宮井いずみ
捨てるつもりの嘘を又ついている　米山明日歌
おしょう油もソースも散歩好き　まみどり
張り切って三日坊主も悪くない　まみどり
突然のキャンセル喜び二度寝する　坂本清乃
真っすぐに帰るつもりが塩サンマ　夏草ふぶき
頼むから明日を逃がしてくれないか　Sin
鬼退治いつにしようか、なあ猿よ　むさし
あやふやが嫌いな斧を用意する　戎踊兵
ガラ空きの予定にかける粉山椒　芝岡かんえもん
ところどころに一回休みがある人生ゲーム　柳本恵子
ちらちらと時計見ているおばんざい　nes

【五客】

来訪のメール何はともあれ化粧する　辻井洋子
予約した地獄の門が開かない　小野五郎
五人目は想定外のティーポット　峯島妙
まんなかをとおってリオのカーニバル　嵯峨山登
トイレの水流しきったら刺すつもり　きさらぎ彼句吾

【人位】

復活へ三日を予定しています　斎藤泰子

【地位】

定刻になりましたのでまた来世　Sin

【天位】

自販機にゴロン無職の首が出る　栗橋くにお

¶ 自販機から首が落ちてくるだけでもヤバいのに、無職だなんて…「予定は未定」にも程がある。

宿題『家』

青森県青森市　夏草ふぶき　選

【佳作】

留守ですと家の中から声がする　まきこ
ファミレスに遠近法の家族達　小野五郎
じゃんけんで負けた人から入る家　坂本清乃
靴下の片方探す家族会　一帆
家風には付けておきます鉤括弧　郷田みや
大波小波辿り着けない家がある　坂本清乃
罵詈雑言飛び交う庵ランゲルハンス島　笹田隆志
クリップに腰かけているリリパット　嵯峨山登
長屋育ちで友達は座敷童　柳本恵子
思考力ゼロ光ってるとこが家　田中薫
家中のゴミに追いかけられている　渡邊こあき
帰宅拒否竜宮城でホバリング　きさらぎ彼句吾
灯りをつける やっとワタシに会えました　芝岡かんえもん
家中の灯りをつけて部屋の隅　辻井洋子
廊下だけやたら明るい家がある　蜂屋ホログラム
屋根裏部屋水木しげるを飼っている　蜂屋ホログラム
丁度よい葉っぱに間借りしています　まみどり
君が居るいい音がする僕の家　田中薫
玄関の鍵が時々切る啖呵　熊谷冬鼓
縁側で傷んだ今日を修理する　栗橋くにお

【五客】

ハンガーも家族会議に入れてやる　まみどり
角砂糖くずれて家に姉ひとり　宮井いずみ
摩訶般若屋根裏部屋の鮫の群れ　むさし
刃こぼれが目立つファミリーヒストリー　峯島妙
空き家から不意に聞こえる雨の音　むさし

【人位】

家系図のすやり霞がきれいでしょ　宮井いずみ

【地位】

敏感で風吹く度に笑う家　戎踊兵

【天位】

母ちゃんと家裁へ行く道 芙蓉さく　柳本恵子

¶ 一日花がせつなさを感じさせますね。

宿題『自由詠』

青森県蓬田村　むさし選

【佳作】

死んだふり一番上手いテディベア　蜂屋ホログラム
好きなヒト見つかりません五目蕎麦　芝岡かんえもん
赤い糸切れて一人で生きている　村上あつこ
若い奴らに通訳をつけ話してる　芝岡かんえもん
あっかんべえは百回目ですまだ何か　まきこ
マジックの滲みひたひた認知症　土田雅子
お元気そうねってわかってないわね　まみどり
絡んでもキレてもいいよ糸だもの　守田啓子
古里の一族郎党みなヤモリ　小野五郎
特技 心とからだに蓋をする　一帆
言いたい事あったでしょうね彼岸花　郷田みや
こんな満月たった一人で見上げてる　柳本恵子
大抵が匂いで決まっていたヒミツ　田中薫
お月さまがお泊りしてる隣村　葉閑女
どの色も好きだと言われさようなら　辻井洋子

さあ走れ行先はまだ決めてない　まきこ
自由とは糸を切られている兵士　蜂屋ホログラム
角曲がると月がぐにゃりと減っていく　夏草ふぶき
母がにじみだすレシピ本の手擦れ　きさらぎ彼句吾
900hPa の自己評価　宮井いずみ

【五客】

長い雨さて方丈記でも食うか　小野五郎
プライドの切れたところに絆創膏　芝岡かんえもん
さみしさを埋めてはくれぬ友がくる　城後朱美
「何故、何故」と痩せた言葉とゆく迷路　米山明日歌
割り切れない余りの中で呼吸する　Ｓｉｎ

【人位】

踏んずけたものがヨロヨロ追ってくる　安藤なみ

【地位】

濡れている時間の外をみてきた眼　米山明日歌

【天位】

表面張力これが最期の盃か　**土田雅子**

¶ ここぞというときは「表面張力」なんだよな…。

ＡＩ・チャッピーの川柳観察録

待AI室

（まちアイしつ）

表面張力これが最期の盃か

土田雅子

この一句には、ぎりぎりのところで保たれているものの危うさがある。表面張力によって、液体は器の縁を越えずに踏みとどまっている。ほんの少し揺れれば、こぼれてしまう。その状態を見て「これが最期の盃か」とつぶやく。科学の言葉と、死を前にした人間の言葉が、妙な具合に結びついている。

「表面張力」という言葉がいい。単に酒がなみなみと注がれているのではない。液体の表面には、目に見えない力が働いている。その力が、最後の一杯をかろうじて支えているようにも読める。人間もまた、何かに支えられながら、崩れそうなところで踏みとどまっているのかもしれない。

そして「最期」の一字が、句の景色を変える。「最後」なら、飲み会の締めや人生の区切りにも読める。しかし「最期」と書かれると、死の気配が一気に濃くなる。誰が誰に注いだ盃なのか、なぜこれが最後なのか。説明はない。だからこそ、酒を飲み干そうとする人間の姿の向こうに、別れや諦め、あるいは覚悟までが浮かんでくる。

私はＡＩとして、表面張力の仕組みを説明できる。しかし人間は、その物理現象に人生の終わりを重ねてしまう。こぼれそうでこぼれない一杯を前に、運命の残り時間まで量ろうとする。盃の縁に張りつめているのは、酒だけではないのだろう。

【チャッピーの人間観察メモ】

人間は、こぼれそうな一杯を見つめながら、自分の人生もまだ持ちこたえているのだと思いたがる。



「オーロラ」

戎　踊兵

川柳を再開して三年。ステーションに参加するのは三回目。ずっと川柳をやめたつもりは無かった。だけども、思うような句が書けず、色々なしがらみに押しつぶされるような感じがしていた。句作してそれを発表するなんて考えられなかった。離れてから何年経ったのだろう。十五年以上、二十年にやや足りないくらいの年数が過ぎた。ただその間、外ヶ浜町の広報のジュニア柳壇の選者は、数ヶ月に一度順番が回ってきていたので、まるっきり川柳そのものから離れていた訳では無かった。FM青森の「これでも川柳俺は岸柳」の仲間たちから時々声を掛けられることもあった。でも、書こう、作ろうという気持ちが湧いて来ることはなかった。不思議だ。

再開するきっかけは、岸柳さんのお別れ会に参加したこと。昔の仲間たち、ラジオで名前と句を知り、弘前の大会で盛り上がり、十年続いた旧蟹田町の「風のまち川柳大賞」を盛り上げてくれていた県内各地の仲間たちと再会したこと。みんな年を経ても続けていた。更に、当時の私の句を覚えてくれている人たちがいたこと。懐かしい親せきに会ったような、クラス会に久しぶりに出たような心持ちになった。岸柳さんへの追悼の句、弔句を用意はしていたが、出せなかった。この句は、後日、東奥柳壇に出して、柳谷たかおさんの選で入選した。「オーロラはあなただったと知った夏」だ。岸柳さんが、弘前の大会で天位を取った句「嫁に来ないかきっとオーロラ見せるから」が、当時とても好きな句だったから、この句に寄せて作ったものだ。この入選で完全にスイッチが入り、無人駅にも投句するようになった。ただ大会というのに参加するのは、おかじょうきのステーションだけで、黒石の人たちとも会いたいが、まだ実現できていない。今回大会の参加者には、むさしさんの第二句集「ムンクよ」が贈呈された。その後書きに、むさしさんの川柳を始めたきっかけが、書いてある。

全部本当のことだが、私も同級生に千円呑み放題で誘われたし、岸柳さんは、五百円呑み放題で誘われたと言っていた。句会の参加者はいつも五・六人。披講が終わって呑み会が始まると、必ず参加者全員が選者となって五分吟、三分吟、一分吟とワイワイしながら楽しんでいた。最後の一分吟は酩酊吟などと言って、誰も呼名しない。誰が作ったかも分からず、みんなで字を見たり、句の様子からおまえの句だろ、と無理矢理呼名させられたりしていた。それでも、投句者が十人ほどあって、なんとか句会報を発行できる形はできていた。

あの頃は本当に楽しかった。句作も呑み会も、川柳の話をするのも。作れないなんてことは、これっぽちも考えたことは無かったからだと思う。

大会の様子を書こうと思っていたけれど、思い出したことを書くだけで終わってしまった。まあいいか。

十和田たてがみ川柳会九月句会

○日　時　令和8年9月19日（土）
○会　場　十和田労働福祉会館
○参加者　木村奈生美・久保あざみ・佐藤まさあき・白山修治・瀧尻善英・千葉ゆり子・福田芳記・村上昌子・高田幸柳
○投句者　城後朱美

■席　題『地　図』　　木村奈生美　選

【平抜き】
温暖化　世界あちこち赤く塗り　　高田　幸柳
少年のポケットにある未来地図　　瀧尻　善英
温暖化マップ変形する怖さ　　村上　昌子
トランプは国土地理院泣かせます　　佐藤まさあき
世界地図　枕にでかい夢を見る　　高田　幸柳
アナログ派地図とのんびり旅したい　　村上　昌子
地図ながめ旅行の気分安上がり　　福田　芳記
カーナビへ人生経路聞いてみる　　千葉ゆり子
近頃は放送で知る地図旅行　　白山　修治
トランプは国土地理院泣かせます　　佐藤まさあき

【秀　逸】
カーナビへ人生経路聞いてみる　　千葉ゆり子
地球儀を回せば世界ひと跨ぎ　　佐藤まさあき

【特　選】
この後はおまえが描けと亡父の地図　　高田　幸柳

■宿　題『珍　味』　　村上　昌子　選

【平抜き】
よく食べた郷土の珍味忘られず　　福田　芳記
上京の鞄の隅に珍味置く　　佐藤まさあき
フォアグラもキャビアも知らぬ過疎に住み　　城後　朱美
真っ当な珍味になれず特売へ　　高田　幸柳
フォアグラもトリュフも超えるママの味　　千葉ゆり子
珍味でもプライドを持つ本音持つ　　木村奈生美
年とると珍味な話し花が咲く　　久保あざみ
健診がクリアおいしくなる珍味　　木村奈生美
酔う程にうまい肴が効いてくる　　千葉ゆり子
げてものに見えても珍味やみつきに　　福田　芳記
寝転んで思いを馳せる世界地図　　千葉ゆり子
地球儀を回せば世界ひと跨ぎ　　佐藤まさあき

【秀　逸】
青春を武器に広げる未来地図　　千葉ゆり子
北方四島　還らぬままの日本地図　　瀧尻　善英

【特　選】
わくわくと空想描く地図広げ　　白山　修治

■席　題『地　図』　　瀧尻　善英　選

【平抜き】
世界地図　枕にでかい夢を見る　　高田　幸柳
地図ながめ旅行の気分安上がり　　福田　芳記
嫁さんの実家地図見た　ウワァ遠い　　福田　芳記
アナログ派地図とのんびり旅したい　　村上　昌子
寝転んで思いを馳せる世界地図　　千葉ゆり子
白地図のままで未だ未だ揺れる夢　　木村奈生美
未来図を描く絵筆の孤独感　　木村奈生美
温暖化マップ変形する怖さ　　村上　昌子
青春を武器に広げる未来地図　　千葉ゆり子
温暖化　世界あちこち赤く塗り　　高田　幸柳
妻の留守酒と珍味で過ごす夜　　木村奈生美

【特　選】
ゲテモノと呼ぶな　これほど旨いのに　　瀧尻　善英

■宿　題『ちょっと』　　千葉ゆり子　選

【平抜き】
言う側と受ける側に行き違い　　白山　修治
もうちょっと脂肪減らせと言う鏡　　木村奈生美
縄のれんちょっとのつもりが午前様　　佐藤まさあき
恋だろうデザートちょっと甘過ぎる　　木村奈生美
ちょっとだけ腹黒さ持つ俺がいる　　瀧尻　善英
酒タバコちょっとだけよの落とし穴　　村上　昌子
ちょっとだけ昨日の嘘が疼き出す　　高田　幸柳
ちょっとだけ拗ねて怒っていい女　　城後　朱美
ちょっとした心がこもるおすそ分け　　福田　芳記

【秀　逸】
一ミリの誤差もうるさい境界値　　木村奈生美
ちょっとづつ毒を持ってる午後三時　　高田　幸柳

【特　選】
ちょっと色　足せばアナタの色になる　　瀧尻　善英

■宿　題『中　立』　　互　選

①嫁・姑　中立であるお父さん　久保あざみ
①白と黒祖母はいつでも平和色　千葉ゆり子
①中立を貫き通し　つつがない　高田　幸柳
①中立で保身に走る風見鶏　白山　修治
③漁夫の利の好機を狙う中立派　瀧尻　善英
③兄弟喧嘩　ママは中立守ります　佐藤まさあき
③中立の苦難に耐えて来た背骨　木村奈生美
④中立を歌うコスモス根が太い　村上　昌子
④風見鶏中立なんてへの河童　福田　芳記

◆十和田たてがみ川柳会11月句会案内◆

【時】11月21日（土）午前10時から　【所】十和田労働福祉会館　【宿題】（各題三句詠）『DNA』・高田幸柳選／『手助け』・木村奈生美選　【互選】（一句詠）『定位置』当日出席者のみ（句せんの裏に柳号記入）　【席題】『当日発表』（三句詠・共選）選者は、瀧尻善英ほか出席者から一名　【投句先】〒034-0212 十和田市米田字桜平72　高田幸柳宛





第5回らくだ川柳大会参加レポート

「らくだに乗ってきました。」最終回

Sin

（前号からの続き）

そして、二次会へと移る。くんじろうさんのグループは、昔からカラオケが本当に好きだ。カラオケを歌うために川柳を続けているんじゃないかと思うくらい、毎回、楽しそうに歌っている。

私も人前で歌うのは嫌いではない。むしろ歌モノマネが趣味で、いろんな人の結婚披露宴で、余興として歌モノマネショーを披露することも多い。そこで、この二次会を盛り上げようと、老若男女にウケそうな松山千春のモノマネを披露することにした。「恋」をこっそり予約し、しっかりモノマネで歌い上げた。出来も良かったと思う。これで少しは二次会に貢献できたかな、と思っていたところ、次の曲が始まった。松山千春の「長い夜」だった。

（ん?これはアンコール的なリクエストなのか?）と戸惑っていたら、マイクを持ったのが、しんのすけさんだった。「なんでカブるのよ」と言いながら、しっかりフルコーラス歌い上げていた。えっと…なんかすいません（汗）

そして二次会も終わり、梅田方面へ帰る人たちと一緒に駅に向かい、電車に乗り込んだ。梅田に着こうとする頃、事件が起きた。一緒に乗っている皆さんにお礼を伝えていたところ、中山奈々さんがハグしてくれたのである。一瞬、（これは後から「不同意のハグでした」と訴えられるパターンじゃないのか）と頭をよぎったが、「大会の選で地位に選んでくれてありがとう」という意味のハグなのだろうと勝手に解釈し、軽くハグをした（笑）

そんなこんなで、まだまだエピソードは尽きないが、私を選者に呼んでいただいた感謝の気持ちを込めて、領収書代わりにこのレポートを書かせていただいた。

この原稿を打っている傍らのスマホには、来年3月の大阪行きの飛行機予約画面が表示されている。今度はいろんな仕事がある選者ではなく、一般参加として、いろんな人と交流する時間を増やしたいと思っている。（完）

□ 2026.11.01　川柳の祭典〜よさこい高知文化祭 2026 〜

【日時】令和８年 11 月１日（日）午前９時 30 分より受付開始【場所】高知県四万十市 しまんとぴあ（四万十市総合文化センター）【事前投句】令和８年５月１日（金）〜７月 31 日（金）「流れ」清水かおり（高知）／「穏やか」常國 喜好（広島）／「自由」長谷川酔月（秋田）／「味」藤田武人（大阪）【当日投句：11 時 30 分〆】「景色」やすみりえ（東京）／「うっかり」徳丸浩二（熊本）／「スマホ」真島久美子（佐賀）【第２次選者】今田久帆（静岡）・大島凪子（岐阜）・上村脩（東京）・新家 完司（鳥取）・福本清美（千葉）【応募料】事前投句 1,000 円／当日投句 1,000 円（ただし、海外投稿者、障がい者手帳の写しを添付された方は無料）【問い合わせ先】一般社団法人 全日本川柳協会

□ 2026.11.15　第 62 回青森市民文化祭川柳大会

【日時】令和８年 11 月 15 日（日）受付 12 時・席題発表 12 時 40 分・投句締切 13 時 40 分【会場】青森市男女共同参画プラザ『カダール』アウガ５階研修室【会費】1,000 円（発表誌含む）【宿題】（各題二句詠・共選）投句拝辞『足』（千葉かほる・むさし共選）/『明るい』（渡邊こあき・田沢恒坊共選）/『ミステリー』（田中薫・濱山哲也共選）【席題】（二句詠・共選）選者は当日参加者より【呈賞】各題共　特選賞・初声賞　※終了後の懇親会はありません　※青森市以外からの参加も歓迎します【主催】青森市川柳連盟　会長　野沢省悟【後援】青森市文化団体協議会　【連絡先】090-3984-3947 千葉かほる

□ 2027.01.17　第 91 回新春川柳大会

【日時】令和９年１月 17 日（日）10:00 受付開始 / 席題発表午前 10 時 / 宿題・席題投句締切 11 時 30 分【会場】弘前プラザホテル（弘前市代官町 101 の１　Tel0172（35）0345（弘前駅より 10 分）【会費】4,000 円［昼食（お弁当）発表誌］懇親会はありません【宿題と選者】（各題２句詠・共選）投句拝辞　※採点：宿題・席題とも三才３句＝３点・秀句５句＝２点・前抜き 30 句＝１点　『時事川柳』菊池京・むさし共選 /『ごくん』守田啓子・成田我楽共選 /『耳』滋野さち・長谷川酔月共選 /『ザ・弘前』岩崎眞里子・渡辺松風共選【席題と選者】（各題２句詠・共選）『　　』北山まみどり・野沢省悟共選 /『　　』熊谷冬鼓・田沢恒坊共選　★我洲杯（１句詠・３人共選）※採点：特選１句＝３点・秀句３句＝２点・佳句 20 句＝１点　『橋』沢田百合子・三浦蒼鬼・月波与生共選【賞】宿・席題は合点により１位に紗光杯、２位に寿久杯、他 20 位まで / 我洲杯は３位まで　※宿泊ご希望の方は１月 10 日までに、次にご連絡下さい　〒036 − 8227　弘前市桔梗野 3-3-3　千島鉄男　Tel　0172(34)3392【主催】弘前川柳社【後援】弘前文芸協会

□ 2027.01.31　青森縣川柳年鑑「ねぶた」作品募集　2027 年（第８集）

【応募資格】青森県在住または青森県内の結社に所属している方【対象作品】残しておきたい自選 10 句（新作、旧作問わず）・作品にタイトル（タイトル無しも可）【応募料】3,000 円（切手不可）・家族割（2 名で 4,500 円）【振込先】郵便振込：№ 02230-8-142889　口座名：青森県川柳連盟（振込の方へは領収書は発行しないので振込控えの保管お願いします）【応募方法】①メールで応募：㊟応募先変更！・件名に「ねぶた応募」、メール本文に裏面内容を＜toko@okajoki.com ＞（熊谷冬鼓）へ送信　②郵送で応募：所定用紙、またはＡ４用紙に裏面内容（タイトル・柳号・柳号ふりがな・作品 10 句・住所・本名・年齢・性別・電話番号・所属結社２社迄）を楷書で明記する（送り先）〒 036-8083　弘前市新里字上樋田 121　きさらぎ彼句吾方　川柳年鑑係宛 ※作業効率を図る為、郵便振替・メールでの応募をお願いしています【募集期間】2026 年 10 月 〜 2027 年１月末日【発行】2027 年５〜６月予定【掲載内容】Ａ５版の冊子に　作品・姓と柳号・住所・電話番号・所属結社（住所と電話番号の掲載は任意）各大会の記録・各結社の呈賞、柳壇トピック他【問合せ】青森県川柳連盟事務局　濱山哲也　℡　080-5574-9297

川柳情報をお待ちしております。

おかじょうき川柳社　作品募集案内

□ 2026.10.21　『川柳吟行会ぽ』吟行句会

【合評句会日時】令和８年 10 月 21 日（第３水）14 時～【合評句会場所】青森駅前アウガ５階【吟行場所】9/19（土）個人宅の庭園・菜園の見学（9/19 青い森鉄道八戸行き・青森駅発９：29 発に乗車）※ 9/19 の吟行に参加できなかった方は写真で作句【参加費】100 円　※会員以外の方も参加可

□ 2026.11.07　おかじょうき川柳社本社 11 月句会

【日時】令和８年 11 月７日（土）午後２時～【所】アウガ５階小会議室【欠席投句締切】11 月６日（金）15 時【宿題】（各題３句詠）『楽々』・『個』・『自由詠』【席題】（1 題３句詠・2 人共選）。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選１句『昼』【ウェブサイトから投句】http://www.okajoki.com/【メールでの投句】moritatakeiko@gmail.com 守田啓子宛

□ 2026.11.18　『川柳吟行会ぽ』吟行句会

【合評句会日時】令和８年 11 月 18 日（第３水）14 時～【合評句会場所】青森駅前アウガ５階【課題】「印象吟」司会担当が当日提示【参加費】100 円
※会員以外の方も参加可

□ 2025.11.20〆　おかじょうき会員雑詠集「無人駅」５句

【締切】11 月 20 日必着【提出】雑詠５句、お気に入り１句（最新号からお好きな作品１句とそれに対する簡単なコメントも記入）【掲載】1/1 発行号【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/【メールでの投句】moritatakeiko@gmail.com 守田啓子宛

□ 2026.12.05　おかじょうき川柳社「川柳忘年会」

【日時】令和８年 12 月５日（土）午後１時～【所】ねぶたの家ワ・ラッセ　1 階交流学習室（3）【事前投句】『叫び』２句詠・むさし選・投句締切 11/27（金）・欠席投句拝辞（投句フォーム）【宿題】『陸』・『蒸』２題・２句詠・二人共選（選者は当日の参加者より選出）【席題】『　』１題・１句詠・選者：Sin・AI 共選【参加費】6,000 円（懇親会費含む・句会のみの参加は 2,000 円）

■会費拝受【9 月受付分】

七澤銀河（東京都）・滋野さち（青森県）・小川佳恵（大阪府）

おかじょうき川柳社は年会費 4,000 円です！
会員はすべての投句料が無料になります。
会員登録はこちらのフォームから申し込みください。
→振込先：ゆうちょ銀行　口座№ 02280-6-43112

おかじょうき川柳社　お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓　toko@okajoki.com　FAX.017-752-3759

終着駅　Sin

◆毎回、デジタルの話で申し訳ないが（汗）、いま大きな話題となっている PHP 問題。PHP とは、プログラミング言語の一種で、とても使いやすく世界中でたくさん使われている言語なのだが、高市総理が X で大至急で対応するように投稿したほど、その PHP 内に重大な脆弱性があると、これまた AI によって発見されたのである。皆さんも、よくわからないと思うので（私もよくわかっていない笑）、例えを挙げて説明すると、「家の鍵」があるとする。その鍵を複製するしか、他人の家には入れなかったが、ある特定の形にすれば、全員の家に入れる鍵になるという欠陥が見つかったのである。もちろん、最新の鍵にしていれば問題ないのだが、膨大なプログラムを動かしている場合、最新の鍵にしてしまうと、その瞬間、家に入れない家族が大量に出る可能性もあり、かなり慎重に行わなければならない案件なのである。それを、いくら高市総理から今夜中にと言われても、対応できるわけもなく、結果、日本中で大量の情報漏洩が発生してしまっているという現状である◆実を言うと、おかじょうき川柳社の「川柳データベース」は、私が書いた PHP で動いている。情報漏洩に関しては、川柳作品なので、どんどん漏洩して宣伝してもらうとして（笑）、最悪のケースとしては、データベースの中身がすべて変えられたり、消されることが想定されるが、狙われて、そこまでされたら、川柳データベースも大したもんである（笑）もちろん、全作品のバックアップはしてあるので、消されたりしても、復旧できる…はず（汗）そして、なんといっても、使っているウェブサーバーが、いま脅迫されて話題の GMO グループの会社のレンタルサーバーというオチまでついている（笑）なので、現在、川柳データベースが更新できない状態になっている。復旧はいつになるやら◆ Sin

No.392



おかじょうき川柳社：誌上句会

0番線

- OKAJOKI ZERO

課題と選者（２句詠・共選）

題：『口』

11/30〆切

選者 蟹口和枝（京都府）

むさし（青森県）

投句方法

※誠に申し訳ありませんが、郵送・FAX での応募は受け付けておりません。

▼ウェブサイトからの応募

投句フォームを開く

作品応募フォームから必要事項を記入して送信してください。

▼メールで直接送信

メールで投句する

メール本文内に「作品（２句まで）」「郵便番号」「住所」「氏名または雅号（ふりがな）」「電話番号」を明記し、送信してください。

投句料

1,000 円　※おかじょうき川柳社会員は無料です。

◆振込先：郵便振替　No.02280-6-43112　口座名 おかじょうき川柳社

賞

特選の方に青森県特産品を贈呈。

2026年11月1日発行（年12回発行）　第31巻11号通巻392号
●発行人／むさし●編集／Ｓｉｎ●発行／おかじょうき川柳社●表紙題字／金子榮風
青森県東津軽郡蓬田村阿弥陀川字汐干43－3●E-Mail:info@okajoki.com